

(別記)

## 2019 年度愛南町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、耕地面積 1,380ha の中山間地域であり、その内水田が 695ha で 50%、次いで樹園地が 472ha で 34%となっている。水田は平地部から山腹にかけて位置し、山間部には樹園地が開けている。

管内水田のうち 393ha は主食用米栽培、302ha は転作等に利用されており、水稻の作付体系では早期栽培が 276ha で 70%を占めており、年々増加傾向にある。

これまでも需給調整対応や多角的で将来性のある水田農業を確立するために転作作物としてブロッコリー等の栽培を行っているが、今後、さらなる水田の高度利用を行うために野菜等の地域振興作物を転作重点品目として位置付け、団地化へ向けて誘導していく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、今後、農家戸数の減少による不作付地拡大の恐れがあるため将来を見据えた農地の維持管理が課題となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

コシヒカリを中心とした早期米やヒノヒカリ、にこまるの普通期米に対する病虫害防除体制を確立し、省力、低コスト化の推進に努めるとともに、肥培管理を徹底して良質米産地を確立する。また、県オリジナル良食味米であるひめの凜の生産拡大、遠赤外線乾燥機による良食味米の安定供給、早期コシヒカリの消費宣伝・販売促進を行い新たな顧客の開拓を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

これまで町内の養鶏農家の飼料としての取組みと JA・全農を通じた広域流通利用での取組みはあるが、主食用米の需要量と価格低迷が続いていることもあり、主食用米と同一機械等で取り組める飼料用米への転換と多収品種の利用を推進し、生産拡大を図る。

##### イ WCS 用稲

直播栽培等の低コスト生産に取り組む一方、地力低下による生産性の低下を防ぐため、収入増が見込める作物を利用したブロックローテーションの導入や畜産農家や地域と連携した取組の推進を図る。

#### (3) 飼料作物

飼料作物は町内の畜産農家と耕種農家の連携による取組みとなっているが、二毛作での取組みや自己保全地等を有効活用し取組面積の拡大を図る。

#### (4) 高収益作物（園芸作物等）

地元の産直市やスーパーに需要がある少量多品目野菜は、地産地消による農家の所得向上が

見込め、限界集落や高齢者でも取組めるため関係機関と協力し支援する。

管内では、「ブロッコリー」、「ナス」、「スイートコーン」を地域振興作物の品目とし、担い手を中心とした作付けを推進する。地域振興作物のうち、「ブロッコリー」は、基盤整備田における栽培方法の確立により栽培面積の拡大を目指し、春作、冬作の販売方法と販売先を拡充する。

「ナス」は、講習会等により栽培技術の向上及び長期安定生産に努め、新規生産者の掘り起こしを図り栽培面積を拡大する。「スイートコーン」は、講習会等により栽培技術の確立を図るとともに有利販売方法を検討し推進する。また、これら3品目については、愛南町野菜産地化推進事業に基づき種苗の導入に係る経費について助成し、作付面積の拡大を図る。その他の野菜は、地産地消の振興や水田の活用にも有効な作物として、また、不作付地や耕作放棄地の発生防止のため、作付けを推進する。

### (5) 畑地化の推進

温暖な気候を活かした柑橘類の栽培が多くみられるが、山間部や傾斜地での栽培がほとんどである。水田での栽培では、栗・キウイフルーツ・ビワ・柿・ぶどうが転作作物として作付けされており、今後は、作業の効率化や低コスト化による生産を目指し関係機関と連携し推進する。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	392.6	364.0	364.0
飼料用米	14.7	15.0	15.0
WCS用稲	4.3	2.9	2.9
飼料作物	0.6	0	0.2
地域振興作物	18.4	19.1	22.0
野菜			
・ブロッコリー	17.3	18.0	20.0
・ナス	0.7	0.7	1.0
・スイートコーン	0.4	0.4	1.0
その他野菜	31.2	31.2	31.2
工芸作物	3.3	3.4	3.4

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	ブロッコリー、なす、スイートコーン(基幹作物)	地域重点作物助成 (担い手)	作付面積	(2018年度) 8.8ha	(2020年度) 10.8ha
2	ブロッコリー (二毛作)	地域重点作物助成担 い手(二毛作)	作付面積	(2018年度) 8.2ha	(2020年度) 11.2ha
3	(1) 野菜 ブロッコリー、なす、 たまねぎ(セットた まねぎ含む)、オク ラ、そらまめ、スイ ートコーン、きゅう り、かぼちゃ、すい か、トマト、ピーマ ン、いちご、キャベ ツ、ほうれんそう、 ねぎ、白ねぎ、はく さい、赤しそ、だい こん、さといも、や まのいも、かんしょ、 いんげん、えだまめ、 えんどう、レタス、 チンゲンサイ、にん にく、しょうが、ば れいしよ、軽量野菜 (小松菜、春菊)、そ の他野菜苗(たまね ぎ苗、いちご苗) (2) 工芸作物等 葉たばこ、小豆、雑 穀(ヒエ、アワ)、薬 草類(ミシマサイコ、 ヨモギ)、その他工芸 作物(こんにやくい も、さとうきび、な たね、ごま) (基幹作物)	野菜・工芸作物等作 付助成	作付面積	(2018年度) 20.7ha	(2020年度) 23.2ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり